

# ■わくわく算数自己評価テストについて(効果的な使い方)■

自ら学び自ら考える力の育成と、基礎・基本の確実な定着は、教育現場における重要な課題である。本資料「自己評価テスト」は、これら教育の普遍的な課題への指導を支援する1つの方策として、児童自らが学習を振り返る評価のあり方を鑑み作成した。

## 1. 自己評価について(3～6学年)

児童の解答の傾向には、次のようなものがある。

- ・しっかり自信を持ってかく場合
- ・なんとなく自信がなくてかく場合
- ・考えの根拠がなく、当てずっぽうにかく場合

つまずきの解消のためには、これらの解答の違いを浮き彫りにし、自分の取り組む姿を見つめる手立てに変えていくことが大切である。

そこで、各設問の終わりにある下の4段階のマークで情意面を評価させたい。



指導者側は、その解答マーク(自己評価)を照らし合わせて、児童の学習に対する理解度として、返していくことが大切である。

### 〈例えば右の問題で〉

- 全問正解で 😊 ならば、
  - 問題の内容をしっかりと自分のものになっていることがわかる。
- 全問正解で 😐 ならば、
  - 今回のテストでは正解であるが、理解面ではどこかに不安を持っていることがわかる。その不安がどこにあるか知ることが大切であろう。
- 全問誤答で 😊 または 😐 ならば、
  - 自分の考えはしっかり持っているがどこかに大きな間違いがあり、そのポイントを見つけてあげることが大切である。
- 全問誤答で 😞 または 😓 ならば、
  - はじめからていねいに指導しなければならぬ児童である。誤答を分析しながら、理解ができていないところを見つけて指導していく必要がある。
- 数問正解、数問誤答で 😐 または 😞 ならば、
  - 自分の考えが持てていない児童が多い。または、不注意から間違いにつながっている児童であるかもしれない。自分の考えをしっかりと持っているのか、考え違いをしていないかどうか、ていねいに指導することが大切である。

算数自己評価テスト 啓林館

◆各問題について、自分で自信があるかないか、マークに○をつけましょう。😊 自信あり 😐 まあまあ自信あり 😞 少し自信なし 😓 自信なし

**5年** **2. 体積**

クラス \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_ 組前 \_\_\_\_\_

① 次の体積を求める公式をかきましょう。

① 直方体の体積 =  ×  ×

② 立方体の体積 =  ×  ×

② 次の直方体や立方体の体積を求めましょう。

① (式) 答え ( )

② (式) 答え ( )

③ (式) 答え ( )

④ 次のような図形の体積を求めましょう。(式)

⑤  にあてはまる数をかきましょう。

①  $1\text{m}^3 = \text{ } \text{cm}^3$

②  $1\text{cm}^3 = \text{ } \text{mL}$

③  $1\text{dL} = \text{ } \text{cm}^3$

④  $1\text{L} = \text{ } \text{cm}^3$

⑤  $1\text{m}^3 = \text{ } \text{kL}$

③ 次の体積を求めましょう。

① たて6m、横4m、高さ7mの直方体の体積(式) 答え ( ) (式)

② 1辺4mの立方体の体積(式) 答え ( )

⑥ 内のりが、たて10cm、横30cmの直方体の形をした水そうがあります。この水そうに深さ20cmまで水を入れると、水の体積は何Lになりますか。

(式) 答え ( )

(体積)の学習をふりかえって

★ この学習は楽しかったですか。  
( はい まあまあ 少し いいえ )

◆ この学習はよくわかりましたか。  
( はい まあまあ 少し いいえ )

● 感想を自由にかきましょう。(授業の中で、おもしろかったことや気づいたことなど)

## 2. 単元を終えて授業の振り返り

1・2学年については、その発達段階を鑑み、各設問における自己評価マークは行っていないが、単元全体を見渡して、1学年は3段階、2～6学年は4段階の評価を行う。また、2～6学年の右の自由記述欄については、取り組んだ感想よりも、できる限り実際の学習活動について、印象的だったことを書きとめさせるようにしたい。「おもしろかったこと」「わかったこと」「またやってみようこと」を踏まえた言葉かけや、よく振り返りのできている児童の感想を取り上げ、自分を見つめる力を育てていくことが大切である。

## 3. ご使用にあたって

低学年では、初めてこの資料を扱うときはもちろんのこと、常時、指導者のきめ細かな指導のもと、自己評価させていくことが大切である。授業時における児童の様子を話題にするなどの工夫によって、児童の側も授業を振り返りやすくなるであろう。学年が進むにしたがって、自分で自分の学習が振り返れるよう習慣化させていくことが大切である。